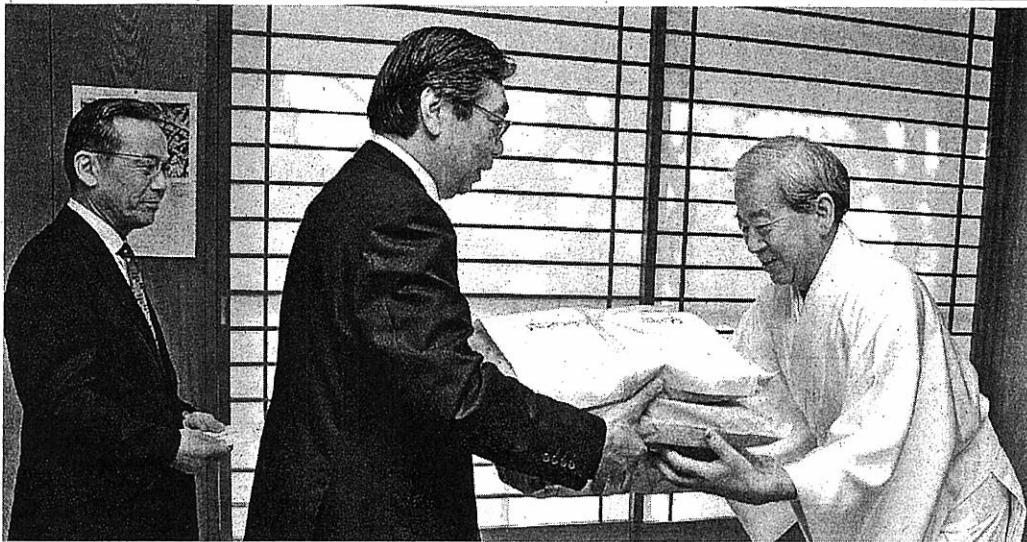


平成22年(2010年)12月15日 水曜日



島根大病院に神話の癒やしを

出雲大社で調湿炭贈呈式

島根県出雲市の出雲大社で14日、島根大医学部付属病院（同市）の新病棟の個室天井に敷き詰めることになった同大社の古い檜皮で作った調湿炭の贈呈式が行われ、千家尊祐宮司が山本広基学長と小林祥泰病院長に調湿炭の見本を手渡した

II 写真。

社務所での贈呈式では、千家宮司が出雲神話を紹介し、「大国主命は医薬の祖でもあるんです」と説明。小林病院長は「パワーをいただき、患者の精神的な支えになります」と感謝した。

調湿炭が使用されるのは、新病棟のがん患者などの緩和ケアと女性専用の計34個室。この日午後から敷き詰め作業が始まり、工事関係者が同大社のご神紋「二重亀甲剣花菱」の入っ

た和紙袋の調湿炭を天井裏に敷き詰めていった。

禰宜は「60年間も神様を守った檜皮が、今度は患者さんをお守りすることになる」と感慨深そうだった。